

インクルーシブ教育の理想的学校制度

—武蔵野東学園—

Ideal Inclusive Education System : Musashino Higashi Gakuen School

佐藤実芳 (Miyoshi SATO)

はじめに

「違いを共に生きる」というのが本学（愛知淑徳大学）の基本理念であるが、大学生になってからこの理念を真に理解して実践することは、容易なことではない。自分とは異なる個性の人間を理解することは誰しも難しい。日本では軽度発達障害の子どもが増加しており、小学校等でも障害児が友達とトラブルを起こしたり、学習指導に支障をきたしたりするなどして、教員はその対応に追われている。どのようにすれば、違いを共に生きることができるのであろうか。

今から 50 年以上前に、「幼稚園教育を一年早くやることは、大げさにいえば、大学を二年分余分に学ぶより効果があるということ、早期教育の一年の価値は大学教育二年分に相当する価値がある」¹⁾と早期教育の価値を認識して、幼稚園を開園した北原キヨ（大正 14 年～平成元年）という人物がいた。北原キヨは、幼児には学習意欲があるわけではないので、子ども達に魅力的な体験を提供することができる豊かな環境を整える必要があると考え、最高の設備を整えた幼稚園を作り上げた。障害児教育を目的とした幼稚園ではなかったが、入園児の中に自閉症児²⁾がいたことから「混合教育」³⁾が始まった。

武蔵野東学園が昭和 39 年から幼稚園で始めた健常児と自閉症児が共に学ぶ「混合教育」は正にインクルーシブ教育である。当該学園はその後、昭和 52 年に小学校を、昭和 58 年に中学校を、そして昭和 61 年に高等専修学校を設立して幼稚園から一貫した混合教育のシステムを作り上げた。現在では、武蔵野東教育センターで、発達障害のある子ども達の療育プログラムも実施している。武蔵野東学園の教育は海外でも評価され、昭和 62 年にはアメリカのマサチューセッツ州ボストン市に、ボストン東スクールを姉妹校として開校し現在に至っている。

本稿では武蔵野東学園の混合教育に基づく学校制度から、インクルーシブ教育の可能性を検討する。

1. 武蔵野東学園の混合教育の誕生

昭和 39 年 11 月、文部省が北原勝平・キヨ夫妻の学校法人・武蔵野東幼稚園の設置を認可した。当時は幼稚園不足で幼稚園の入園を希望しても入園することができない幼児がいたこともあり、夫妻は翌年 4 月の正式開園までの期間を準備開園することにした。入園料無料・保育料半額の条件で園児を募集したところ、80 人程度の園児が入園した。その中に脳性マヒ、難聴、

自閉症の子どもがいた。

北原キヨは昭和 17 年 4 月から国民学校（昭和 22 年 4 月 1 日より小学校）で教員をしていた経験があった。当時は養護学校（現在の特別支援学校）や特殊学級（現在の特別支援学級）が存在しなかったため、どのクラスにも障害児が在籍していた。北原キヨの担任クラスに、障害児が 5, 6 人いたこともあり、幼稚園にも違和感なく障害児を受け入れた。このような経緯があり、昭和 40 年 4 月に正式に幼稚園が開園した際も、入園児 353 人の中に自閉症児が 5 人いた。これが、武蔵野東学園の混合教育の始まりである。北原キヨは『可能性を求めて ― 武蔵野東幼稚園から小学校へ』で、最初から障害児教育を目的としたのではないことを、以下のように記している。

「・・・子どもを預かった以上、少なくとものんびりとはやらないし、その子ども達を真剣に育てたことは事実です。そういうふうに取り組むなかに障害児が入ってきましたが、私の姿勢や考えには障害児教育をやってどうのこうのしようという気持ちや野心は、とりたててありませんでした。どんな子どもだって育てられる指導力は、当然必要なのだということにすぎなかったのです。」⁴⁾

2. 北原キヨの生活療法

北原キヨは、子どもの心と身体を健やかにたくましく育てたいという思いから、武蔵野東幼稚園の教育目標を「みんななかよし」「すなおなこころ」「こんきのよさ」として、まず健康な身体づくりからはじめ、健全な心を育てることを考えていた。よい生活習慣を身に付けさせ、幼児体育・音楽・造形の指導を中心にした楽しい幼稚園生活を園児に満喫させて、学校教育を受けるのに必要な根気のよさを育てて卒園させることを目指していた。

日本には四季があり、豊かな自然がある。子どもはその「自然」や「季節」から多くを体験的に学んで大人に成長していく。年齢が幼いほど適応力に乏しいため、幼稚園では園児に「自然」や「季節」を軸として、それらを中心に生活を適応させていく力を育てることが大切であると、北原キヨは考えていた。

この考えから生まれたのが「生活保育」であり「生活療法」でもある。自閉症児の場合、健常児に比べて適応力が弱い。そのため、多くの刺激を与える必要がある。北原キヨは「自閉症児には内在する能力がありながら、それが外に出てこない、という非常にもったいない障害」⁵⁾と感じていた。「気を使わせ、体を使わせ、心を使わせるということが、とくに自閉症的傾向の子どもの発達を促す上に大切であると考え」⁶⁾、自閉症児が周囲に関心を持つように根気よく指導した。幼稚園に入園した自閉症児が言葉を話せるようになるなど症状が改善されたことで、「生活保育」や「生活療法」が自閉症児の指導法としても有効であることが明らかになった。

北原キヨは、生活療法の基本を発達と考え、「生^{ナマ}の子どもを教育の中心において、その発達を基本に据え、そこから子どもの発達を総合的にとらえ、促していく方法」⁷⁾と説明している。実際生活の様子から、子どもの興味や関心、身体的な動き、行動力、知的能力などの発達がど

のような状態にあるのかを総合的に把握した上で、当該年齢の子どもが目指す発達を可能にするのに相応しい教育や訓練を行うのが、生活療法である。言葉が話すことができない自閉症児に、言葉の訓練だけをして真の教育効果を期待することはできない。言葉は生活の中でこそ使う意味があるので、子どもの総合的な発達を促進し生活の質を高めることで自然と言葉が出てくるのである。生活療法はマニュアル化された指導ではなく、目前にいる一人ひとりの子どもと真剣に向き合う手作り教育である。

現在の武蔵野東学園では、自閉症児は生活リズムを崩しやすいので、幼稚園では、生活リズムを整えることから始めて身辺（睡眠・食事・排泄等）の自立を目指している。小学校・中学校生活では、生活の自立をはかり、高等専修学校を卒業する時には、自立した社会生活を送ることができることを目標としている。そのために、「体力づくり」「心づくり」「知的開発」を3本柱として、集団生活の中での刺激を通して積極的に自閉症児に働きかけている。

① 体力づくり

運動は、生活リズムを整えると共に、情緒を安定させる効果がある。昼間運動すれば、夜熟睡することができる。夜間に十分睡眠を取ることができれば、昼間の学習能力が高まる。また仲間と共に運動することで、集団への適応力や社会性が育つ。

② 心づくり

自閉症には、何か一つのことに固執して周囲に関心を示さないという特徴がある。集団生活の中で様々な経験を積むことで、周囲のことを意識するようになり、生活習慣が身に付くようになる。能動的に生活することにより言葉が話すことができるようになり、コミュニケーション能力が向上する。

自閉症児は友達と遊ぶことを苦手とする子どもが多い。年齢相応の遊びができるようにすることで、自閉症児も友達と関わることができ、それが集団に適応していく土台になる。例えば遊びの中で自分の順番を待つことにより我慢する力が身につくなど、社会性の発達にも繋がる。

③ 知的開発

自閉症児特有の興味や関心の偏りを減らし、健常児に近い知的能力を身につけさせることが必要である。親や教師の指示が理解できるように集中力を高める視線集中トレーニングや体育や音楽の授業での模倣トレーニングで模倣力を育て、知的開発トレーニングを進める。

3. 武蔵野東第一・第二幼稚園

第一幼稚園は3歳児、第二幼稚園は4歳児と5歳児が通っている。初めての集団生活を送る3歳児は、3歳児だけのゆったりした環境が必要である。他方、集団生活に慣れた4・5歳児は、小学生に向けての発達のために異年齢集団が適している。自閉症児クラスは、3歳児で1クラス（12人）、4歳児で2クラス（22人）、5歳児で2クラス（25人）ある。平成27年5月1日現在、第一幼稚園に210人、第二幼稚園に368人在籍し、うち自閉症児が59人である。筆者は、平成28年2月16日に第二幼稚園を見学したが、子ども達の明るく生き生きとした表情

と幼稚園教諭を含め指導者が多いことが印象に残っている。

園訓は勿論北原キヨの「みんななかよし」「すなおなこころ」「こんきのよき」である。幼児期の教育は人生の基礎を培うがゆえ、小学校教育の前倒し教育を行うことなく、一人ひとりの生きる力と自分の心を育てることに保育の重点が置かれている。園児にとって、遊びこそ総合的な学習の場である。園児の遊びが充実し発展するよう、遊びに没頭することができる環境が整えられている。

質の高い幼稚園教育をするために、体育や音楽等の専門的な知識と技能のある指導者がいる。筆者も訪問時に体育指導を見学したが、体育専門の先生を中心に担任教員も加わって、子どもの年齢に相応しい質の高い教育を楽しく行っていた。

子どもを見守る教員の人数が多いことも、同園の特徴である。体育や音楽等の専門の指導者も通常保育に参加しているため、一人一人の園児の気持ちを受け止めることができ、きめ細かい指導をすることができる。また、体育等特定の時間のみ指導するだけでなく、園児の日常生活を理解した上での指導ができるので、体育や音楽等の指導もより効果的に行うことができている。

「混合教育」により、健常児は自閉症児と接することで、違いを個性として自然に受け入れることができている。そしてこの経験から、相手の立場に立って考えることが自ずとできるようになる。それは園訓である「みんななかよし」に繋がるものであり、卒園後も周囲の人と暖かい人間関係を築くことができ、今後多様化する社会で生きていく子どもたちの大きな財産となると考えられる。

【自閉症児クラス】

自閉症児クラスの入園の選考基準は、自閉的な傾向があるという医師の診断書が有ることと、保護者が園と同じ考え方をしているか否かである。家庭と幼稚園が同じ考え方で自閉症児の教育を行わなければ、教育効果が上がらないからである。

自閉症児クラスは、担任と副担任の2人体制で、小集団の環境で一人ひとりにきめ細かい保育が行われている。自閉症の友達との集団生活で、お互いに刺激しあって成長していくことができる。自閉症児は一人ひとり症状が異なるため、一人ひとりの自閉症児に対して個別な配慮が必要である。自閉症児クラスの子ども達は固定の健常児クラスにも所属しており、症状の程度により健常児クラスとの交流時間を調整している。症状が軽い自閉症児の場合は健常児クラスで一日中過ごしている⁸⁾。幼稚園では、毎日の生活を通して、食事・排泄・着替えなどができるように指導する。毎日の幼稚園生活の中で、少しずつ自分でできることが増えると、それが自信に繋がり、安定した園生活を送ることができるようになる。また「ことば」を意識することができるように積極的に働きかけをしている。

自閉症児は生活が不規則になりがちである。幼稚園で活発に活動すれば、夜の睡眠が安定するので、体育的な活動を積極的に取り入れている。手をつないで歩いたり、まねっこ体操をしたり、かけっこなど、楽しく身体を動かす工夫がされている。ジャンピングボールや三輪車等

の遊具も取り入れている。音楽や造形活動も、自閉症の子どもが楽しむことができる工夫をして実施している。

4. 武蔵野東小学校

北原キヨは幼稚園から小学校までの早期教育の必要性を感じ、「小学校 3 年生ぐらいまでちゃんと指導すれば、あとは放っておいても大丈夫」⁹⁾と幼稚園から継続して小学校教育をすることを考えるようになっていた。実際、武蔵野東幼稚園に入園して「混合教育」と「生活療法」で症状が改善されて卒園しても、小学校で症状が悪化してしまう自閉症児が多くみられた。そこで幼稚園と小学校の一貫した自閉症児教育を望む保護者の強い希望で、武蔵野東小学校が昭和 52 年に誕生した。

北原キヨは、21 世紀を生きる国際人に必要な「自立心、独立心あるいは円満なる人格」を育てるため、武蔵野東小学校の教育理念を、「強く、正しく、美しく」と表現した。それが現在でも同校の教育目標となっている。幼稚園同様、障害児のための学校とは考えていなかった。

現在、各学年健常児クラスが 2 クラス (A・B) と自閉症児クラスが 3 クラス (E・F・G) の 5 クラスである。健常児クラスは 1 クラスの児童が 30 人～35 人で、教員は担任と副担任の 2 人体制である。他方、自閉症児クラスは、1 クラスの児童が 8 人～10 人で、各クラスに担任教員が 1 人と全クラス対象の副担任が 1 人の体制である。教室は、学年ごとに健常児クラスと自閉症児クラスが並んでおり、お互いに交流することが容易な環境が作られている。障害の程度により自閉症児クラスでも、健常児クラスで全日過ごしている児童や、一部の授業や活動のみに参加している児童がいる。健常児クラスとの混合の度合いは、子どもの状態に応じ学期ごとに柔軟に決定している。学年ごとのリクリエーションや体育祭での学年競技等は、健常児と自閉症児が合同で行っている。平成 27 年 5 月 1 日現在、556 人が在籍し、うち自閉症児が 177 人である。

【健常症児クラス】

北原キヨは、「混合教育の母体は、健康な児童の心の豊かさと、活気あふれる行動力、旺盛な知識の吸収力の教育効果の上に成り立つ」¹⁰⁾と健常児クラスの質の高さを求めていた。教科指導に関して現在、1 年生から 4 年生は、国語・算数・生活 (1・2 年生) を担任教員が教え、それ以外は専科の教員が指導している。5・6 年生は、全教科について教科担任制である。バイオリンや剣道等、通常の小学校では取り入れていない教育も実施している。

混合教育を充実させるため、健常児クラスには、障害者理解教育「ともに生きていく」を年 3 回実施している。2 年生では、お互いに良いところを探したり、3・4 年生では障害者の社会での生活や工夫について学び車椅子体験を行う。5・6 年生では、自分とは異なる人との付き合い方を考えるとのことである¹¹⁾。混合教育を通じて、健常児には「おもいやり」「やさしさ」「助け合い」などの心が自然に育っていく。

北原キヨは、教室で教科書を使った授業だけでなく、子どもには実体験による教育が大切で

あると、体験的な学習を多く取り入れていた。現在、小学校 1 年生から 4 年生までの宿泊学習、5 年生の農村体験、6 年生の沖縄学習、1・2 年生のスケート教室、3 年生の日帰りスキー教室、4・5 年生の 2 泊 3 日のスキー教室と、1 年生から宿泊を伴う体験学習が実施されている。また、7 月の盆踊り、9 月の体育祭、11 月の学園祭、2 月の発表会等、年間を通じて子ども達が楽しみな行事が組まれている。

【自閉症児クラス】

生活療法の小学校の目標は、基本的な生活習慣を身に付け、学習指導により知的な成長を促進し、健常児の生活に近い生活自立ができるようになることである。

① 体育

社会的な自立にまず必要なことが、情緒を安定させ、生活リズムを整えることである。それに欠かせないのが毎日体育の指導を行うことである。自閉症児クラスでは、一日 1 回必ずマラソンをさせている。バランス感覚を育てるために、1 年生から 3 年生は、ホッピング、ローラースケート、バランスボード、竹馬、一輪車、スケート、4 年生から 6 年生は徒手体操、跳び箱、マット運動、スキーを取り入れている。

② 心の教育

体育で情緒を安定させた上で、集団生活の中で我慢する力や、良いことと悪いことを区別する力等を育てている。

③ 知的な学習

国語・算数・ことばの学習は、習熟度別クラスで行っている。国語と算数の教材に関しては、四谷大塚との協力で教材を作成して活用している。学年相応の扱いが前提で、教室には該当学年で学習する漢字一覧表などが掲示してある。

自閉症児は、言葉によるコミュニケーションが苦手なので、体験的な学習を取り入れて言葉の指導を行っている。その一つが、学園祭での劇の発表である。

④ クラス編成

自閉症児クラスは、能力的に 3 クラス同じである。重度の症状の自閉症児と軽度の症状の自閉症児が共に学校生活を送ることで、軽度の症状の自閉症児が重度の症状の自閉症児の模範となる。また、重度の症状の自閉症児が困っている時は、軽度の症状の自閉症児が手助けする。頼れる大人がいると、自閉症児は依頼心が強くなり成長することができない。自閉症児の仲間同士が頼ったり頼られたりすることで、症状の軽い子は勿論のこと症状の重い子も自分で出来るが増えるという。

⑤ 音楽・図画工作

音楽では、歌唱、鍵盤ハーモニカ、リコーダーなどを指導している。図画工作の絵画指導では複写トレーニングからはじめ、写生、創作へと指導を進めていく。音楽や図画工作は、感性を豊かにする教育であるが、自閉症児の中には、この分野で才能を発揮しているケースもある。

筆者が平成 28 年 2 月 15 日に同校を訪問した際、運動場でのホッピングの練習と、音楽と体

育の発表会の練習を見学したが、どちらも教員の指示を理解して集団行動をしており、身体と心と知能がバランスよく教育されていることが伝わってきた。

【その他】

部活動（サッカー、ミニバスケットボール、器械体操、剣道、ダンス、吹奏楽）や合唱同好会、課外教室（英語、ピアノ、水泳、ダンス、サッカー）等もあり、保護者の送迎の負担なく習い事をするができるようになっている。

在籍児童全員を対象とする武蔵野東小学校版放課後クラブ「e パル」は、小学校職員が責任を持って運営している。原則、登校日の月曜日から金曜日まで、下校時刻から 18 時までであるが、長期休暇中も数日間実施している。健常児は、課外教室と e パルの行き来が自由である。「e パル」では、児童が校庭や室内で友達と遊んだり、宿題などの学習を行っている。

武蔵野市と連携して、民間学童クラブ事業（1 年生から 4 年生対象）と自閉症児対象の日中一時支援事業も実施している。但し、対象は市内在住児童のみである。

5. 武蔵野東中学校

武蔵野東中学校は、豊かな人間性とたくましい生活力をもち、あわせて将来の国際社会で活躍できる人間の育成を目指している。混合教育も小学校とは異なり、清掃や給食での交流、委員会活動、スポーツ大会や学園祭等の行事、校外学習などが主となる。平成 27 年 5 月 1 日現在、290 人が在籍し、うち自閉症児が 106 人である。

【健常児クラス】

武蔵野東中学校は、高校受験を前提としているため、英語は 2 年生までに中学校 3 年分の内容を終え、国語、社会、数学、理科は 1 年生のうちに 2 年生、2 年生で 3 年生の学習範囲に入り、進学準備に備える。進度は速いが、習熟度別少人数制教育で充実した学習指導を行っている。3 年生では全生徒を対象に週 3 回「特別進学学習」（月・水・金の各 2 時間）が行われている。開校時から、高校受験の学習は校内学習だけで万全であるというシステムにしている。生徒自身が自分の将来を具体的に展望して高校を選択することができ、受験に関しても不安を抱えた受験ではなく価値ある挑戦として受験することができるような進路指導をしている。健常児クラスは 1 学年 60 人程度の 2 クラスである。

中学校では、思春期の心を豊かに培うことを目指して、心の教育が「生命科」として独立して行われている。「生命科」では、生命科学、環境、将来観、国際理解など幅広い内容を扱い、生徒が自らを見つめて、人間として重要なことを学んでいくことが期待されている。平成 27 年度の実施例として「武蔵野東中学校 2017」に紹介されている内容は、友愛（混合教育、他人の考え方・自分の考え方、いやがらせやいじめについて考える）、生命・命の尊厳（生命の誕生と神秘、限りある命の充実）、将来観（将来への意識、自分を見つめる、職業調べ）、福祉（「点字」について知る、ガイドヘルプとは）、国際理解（世界の現状を知る、諸テーマについ

でのプレゼンテーション)、平和(戦争や紛争から学ぶ、諸テーマについてのディスカッション)、死生観(諸テーマについてのディスカッション)であった。中学校では、「生命科」と混合教育により、最も難しい思春期にある生徒の心の教育を行っている

【自閉症児クラス】

ほとんどの生徒が中学校卒業後内部進学するため、中学校では生活に必要な技能を修得させ学力を向上させ、高等専修学校卒業後に社会的に自立できるよう、その基礎を培っている。

自閉症児は健常児以上にこの時期心身の発達のバランスを崩しやすい。情緒を安定させるために適度な運動を取り入れている。また、毎年のスキー教室のほか、清里山荘合宿(1年生)、京都奈良学習(2年生)、グアム学習(3年生)等の宿泊行事で、自分で身の管理ができるようになることと精神的に自立することを促している。

理科と社会の分野では、社会生活に役立つ内容のカリキュラム編成をしている。また、自閉症児にはコミュニケーション能力の育成が大きな課題であるため、国語だけでなく「生活教養」という授業の中で、場面に応じた会話や行動を学習させたり、学園祭で劇を発表させている。実生活についての知識と技能を習得させるために、買い物や公共施設の利用、リクリエーション等の体験及び将来の社会的自立に向けて調理や被服や木工等の学習で、作業能力を高めている。

6. 武蔵野東高等専修学校【大学入学付与(高等学校卒業程度)指定校】

武蔵野東高等専修学校では、「世のために役立ち人々に必要とされる社会人となる」を校訓に、職業人としての資格と技能の取得を目指した教育を実施している。同校も自閉症児との混合教育であるが、在校生の25%が小中学校時代に不登校であった生徒である¹²⁾。同校は、7つのコース(絵画、陶芸、体育、調理・製菓、ファッション、情報ビジネス、大学受験)の総合キャリア学科で、生徒は自由にコースを選ぶことができる。1年を前期と後期に分ける2学期制で、学期ごとにコース変更も可能である。生徒には学習した証として資格の取得を奨励しており、資格を取得させることで生徒に自信を持たせている。大学受験コースのみ、2年生後期から始まる。

専修学校は職業人の育成を目標としており、同校は開学以来卒業時の進路決定率100%を達成している。自閉症教育の最終段階として、卒業後社会人として自立することを目指した教育が行われる。学園内の「チャレンジショップ」¹³⁾でのインターンシップにより、生徒達に社会人として必要な一般常識や礼儀作法等を体験的に学ばせている。社会生活に絶対不可欠なコミュニケーション能力の育成にも力を入れ、毎年開かれるスピーチコンテストをはじめ、生徒が人前で話す機会を多く設けている。筆者が武蔵野東第二幼稚園を訪問した時、同園を卒園した同校の自閉症の生徒と茂手木清副園長の会話を聞く機会があった。円滑なコミュニケーションだけでなく表情等も自閉症とは思えず、同学園の幼稚園からの継続した自閉症児教育の成果に感嘆した。

同校の混合教育の特徴は、健常児と自閉症児がバディというペアを組んで、学校生活を過ごすことである。健常児が自閉症児の学校生活を援助することで、自閉症児の生活の自立を促すだけでなく、自閉症児の何事にもひたむきに取り組む姿勢をみた健常児も、頑張っただけで自らの道を切り開くことができるようになる。同校では、健常児と自閉症児がお互いに支えあって、実社会に出る準備をしている。

自閉症児も含め適応力に欠ける生徒が多いので、体験的な職場実習を2年生で実施し、卒業後自立するために採用内定に結びつくことを目的とした職場実習を3年生で行っている。この実習に備え、自閉症児が多いクラスでは2年生に週3時間作業実習の時間を設けている他、農業分野での就労の可能性を考える農業従事研究も行っている。職場実習に備え、全ての自閉症児には、校内実習を1年生から実施して、学校と社会の違いを学んでいる。進路決定に際しては、家庭・事業主・ハローワーク等と連携を取り、きめ細かな指導を行い、就職後の支援も行っている。

平成26年度までに同校を卒業した自閉症児は904人である。その進路は、企業等への一般就労が479人（53%）、作業所等への福祉就労が325人（36%）、大学・短期大学・専門学校等への進学が90人（10%）である¹⁴⁾。

7. 武蔵野東教育センター

武蔵野東教育センターは、昭和49年に創設された武蔵野東教育研究所を前身とし、平成18年に療育部門の機能を充実拡大して今の名称に改称された。

定員の関係で、武蔵野東学園に入園・入学を希望する自閉症児全員を受け入れることはできない。また、遠方に居住している家庭にも同学園の教育を受けることを希望しているケースがある。同センターでは、学園外の幼児・児童・生徒でも「生活療法」の教育を受けることができるように、小集団でのスクールプログラム、2人1組のラーニングプログラム、各種教室（体育・言語・SST・幼児絵画造形・ダンス）等の養育プログラムを実施している。また、遠方に居住している希望者のために、長期休暇中の集中型季節特別プログラムも開催している。平成28年5月1日現在、教育センター登録児童数は604人いる。同センターでは、療育活動以外にも以下の活動を行い、自閉症児の教育の普及を行っている。

- ① 子どもと向き合うための保護者支援活動：教育相談、保護者勉強会、心理検査の実施
- ② スペシャリストを育てる支援者育成活動：支援者のためのセミナー、講演会
- ③ 書籍の出版やニュースレター、ホームページ等、情報の発信広報活動
- ④ ボストン東スクールや他の機関と連携した研究活動

終わりに

北原キヨが始めた「生活療法」と「混合教育」は、武蔵野東学園でその伝統が受け継がれて今日に至っている。「生活療法」と「混合教育」の素晴らしさは、自閉症児の社会的自立の高さが証明している。自閉症児であっても、幼稚園から教育を受けることにより、自閉症の症状

をかなり軽減させることができる。早くから教育を受けるほど、その効果は高い。

ボストン東スクールも、平成9年に NCASES（全米特殊教育認定委員会）から、全米で7番目の優良校の認定を受けている。世界各国の専門家からも高く評価されており、武蔵野東学園には海外から多くの専門家が訪れているという。

武蔵野東学園の混合教育の成果として、「健常児は障害のある友だちに対しての接し方や心構え（「生きた福祉の心」）を自然に身につけるだけでなく、自閉症児の努力する姿に刺激されて自己の可能性に挑戦する気構えが育っている。」¹⁵⁾ 武蔵野東中学校の生徒は、勉強と部活を両立させて難関といわれる高等学校の入学試験を突破しているのが、その証拠であろう。

武蔵野東学園の幼稚園から高等専修学校までのシステムは、インクルーシブ教育の理想的な姿であると考えられる。年齢により、当然健常児と障害児の扱いは変化してくる。自閉症の場合、明確に判断されるのが3歳以降であり、幼稚園入園段階では必ずしも診断されていない自閉症傾向の子どももいる。同園の場合、必要性があれば健常児クラスの子どもも自閉児クラスで指導するとのことである。また、遊び中心の幼稚園では、健常児と自閉症児とが一緒に過ごす時間が多いが、高等学校受験が前提で学習中心の中学校になると、健常児と自閉症児とでは教育の目的が異なるため、授業時間は共に過ごすことはない。ただし、学校という空間で健常児と自閉症児が共に過ごすことにより、又授業以外の様々な活動で健常児と自閉症児が共に活動することで、お互いに大きな影響を与え合っている。

北原キヨは、早期教育の重要性に基づき自らの理想の教育を実現するために幼稚園を開園した。そして、早期教育の一環として幼稚園と小学校との連携を考えていたことにより、小学校も開校した。上質な教育を子ども達に提供することで、北原キヨが目標とする教育効果をあげることができた。北原キヨは、混合教育の成功の鍵は健常児の質の高さにあると考えていた。質の高い健常児を育てている学園だからこそ、武蔵野東学園の混合教育は高い教育効果を上げていると考えられる。

【注】

- 1) 北原キヨ『可能性を求めて — 武蔵野東幼稚園から小学校へ』、たいまつ社、昭和52年、56頁。
- 2) 平成25年に改訂された DSM-5（精神疾患の分類と診断の手引き 第5版）では、自閉症、アスペルガー障害、非定型の広汎性発達障害、小児崩壊障害を包括して、自閉症スペクトラム障害の呼称に統一されることとなった。本稿では、武蔵野東学園が用いている自閉症、自閉症児という用語を使用する。
- 3) 武蔵野東学園で用いられている「混合教育」は、一般的には統合教育と言われている。本稿では、「混合教育」という用語を用いることとする。
- 4) 北原キヨ、前掲書、65頁。
- 5) 同上書、92頁。
- 6) 同上書、134頁。

- 7) 同上書、86 頁。
- 8) 平成 28 年 2 月 16 日に武蔵野東第二幼稚園を訪問した時、茂手木清副園長から、4 歳児の 3 人、5 歳児の 5 人が健常児クラスで一日中過ごしているとの説明があった。
- 9) 北原キヨ、前掲書、91 頁。
- 10) 同上書、114 頁。
- 11) 平成 28 年 2 月 15 日に筆者が武蔵野東中学校を訪問した際の北村典子教頭による説明。
- 12) 武蔵野東高等専修学校、「変わる 3 年間 Guide Book 2017 武蔵野東高等専修学校 一大学入学付与（高等学校卒業程度）指定校一」、5 頁。
- 13) 喫茶や軽食、ランチの他、卒業生が就労する作業所等の菓子や手芸品等の委託販売を行っている。
- 14) 「武蔵野学園の概要」、平成 27 年 5 月 1 日。
- 15) 同上。

【参考文献】

1. 北原キヨ 『可能性を求めて — 武蔵野東幼稚園から小学校へ』、たいまつ社、昭和 52 年。

【参考資料】

1. 学校法人 武蔵野東学園 パンフレット
 - (1) 「自閉症児を育てる生活療法」。
 - (2) 「MUSASHINO HIGASHI GAKUEN」。
 - (3) 「武蔵野学園の概要」、平成 27 年 5 月 1 日。
 - (4) 武蔵野東第一・第二幼稚園 「Guidebook 一本年の案内— 私が好き あなたが好き 自分を信じる力、友達を受け入れる力」、平成 27 年。
 - (5) 武蔵野東第一・第二幼稚園 「Concept Book 私が好き あなたが好き 自分を信じる力、友達を受け入れる力」。
 - (6) 武蔵野東小学校「武蔵野東小学校 一人ひとりの可能性を引き出し、夢と未来をじっくり描く。Guide Book 2017」。
 - (7) 武蔵野東中学校「武蔵野東中学校 2017」。
 - (8) 武蔵野東高等専修学校「変わる 3 年間 Guide Book 2017 武蔵野東高等専修学校 一大学入学付与（高等学校卒業程度）指定校一」。
 - (9) 武蔵野東教育センター 「発達が気になる子どものための武蔵野東教育センター “Heart to Heart” 心から心へわからあうあたたかさ」。
2. 学校法人 武蔵野東学園 Web 資料
 - (1) 武蔵野東学園「学園の概況」。
<http://www.musashino-higashi.org/gaikyo.htm> （平成 28 年 11 月 1 日閲覧）
 - (2) 武蔵野東第一幼稚園 武蔵野東第二幼稚園「幼稚園の Q & A」。

- http://www.musashino-higashi.org/re_question.html (平成 28 年 11 月 1 日閲覧)
- (3) 武蔵野東小学校「学童『e パル』について」。
- <http://www.musashino-higashi.org/shogaku-epal.htm> (平成 28 年 11 月 1 日閲覧)
- (4) 武蔵野東小学校「教育の特色」。
- <http://www.musashino-higashi.org/shogaku-kyoiku.htm> (平成 28 年 11 月 1 日閲覧)
- (5) 武蔵野東小学校「Questions & Answers」。
- <http://www.musashino-higashi.org/shogaku-q&a.htm> (平成 28 年 11 月 1 日閲覧)
- (6) 武蔵野東小学校「2015－2016 カレンダー」。
- <http://www.musashino-higashi.org/shogaku-calendar.htm> (平成 28 年 11 月 1 日閲覧)
- (7) 武蔵野東中学校「カリキュラムの重点」。
- <http://www.musashino-higashi.org/chugaku-curriculum.htm> (平成 28 年 11 月 1 日閲覧)
- (8) 武蔵野東中学校「Questions & Answers」。
- <http://www.musashino-higashi.org/chugaku-q&a.htm> (平成 28 年 11 月 1 日閲覧)
- (9) 武蔵野東中学校「生徒募集情報」。http://www.musashino-higashi.org/chu_bo.htm#入
試概要 (平成 28 年 11 月 1 日閲覧)
- (10) 武蔵野東中学校「卒業生の声」。
- <http://www.musashino-higashi.org/chu-koe.htm> (平成 28 年 11 月 1 日閲覧)